

市長のおでかけミーティング 三河仏壇振興協同組合

市長が市内の企業や店舗に出かけて話を伺う「おでかけミーティング」。従業員さんやお客さんとの意見交換や激励を行い、それを発信することで、市民の皆さんに岡崎の企業、店舗の良いところを知ってもらい岡崎愛を深めていただけるように取り組んでいきます。

第8回のおでかけ先は、「三河仏壇振興協同組合」。加盟店の愛知屋仏壇本舗で、受け継がれる伝統工芸の技術と三河仏壇振興組合や加盟店での取組についてお話をしてきました。



絢爛豪華！三河仏壇を拝見

中根市長　すごいですねえ。仏壇に囲まれたお部屋というのは恐れ多いというか・・・。ここにあるものは全部、三河仏壇ですか？

太田社長　そうです。

中根市長　絢爛豪華ですねえ。



太田社長 扉にある蒔絵の右の絵柄、何か分かりますか？

中根市長 矢作橋ですね。

太田社長 はい。蒔絵には地上にあるものを描くことが多く、これは岡崎の情景を描いています。



中根市長 木がむき出しのものがありますが、製作途中のものですか？



太田社長 これは漆が塗られる前の「木地（木材の地質）」を見ていただきたく、展示しています。

仏壇はくぎを使わずに木だけで組んでいきます。この造りは成型が崩れずとても丈夫だと言われています。

中根市長 よく見るとここには龍がたくさんいますね。

太田社長 龍がある須弥壇から上は極楽の世界を表しています

下は私たちが住んでいる世界を表しているんですよ。極楽の世界に邪悪なものが入らないように龍が守ってくれています。

普段、仏壇の天井を見る機会はなかなかないと思いますが、このように織り上げ天井になっています。お寺の天井もこのようになっているところがあります。仏壇は寺院の造りを模写した、寺院のミニチュアなんです。今後、お寺に行ったらぜひよく見てみてください。



中根市長 圧巻ですねえ。これは芸術作品ですね。

愛知県産業厚労賞 彫刻師 石川博紀さん

太田社長 三河仏壇の彫刻をしているのは、今年度、愛知県産業功労者賞を受賞した石川博紀さんです。



中根市長 受賞おめでとうございます。

デザイン、設計図を作ってから彫るのですか？

石川さん 各宗派の総本山など、有名なお寺に行くと名人がこしらえた古い彫刻を見ることができます。そういうものを見本にデザインを考えています。

中根市長 仏教の経典などの勉強も必要そうですね。

石川さん はい。色々な宗派がありますし、極楽浄土の世界で美しい鳥が舞っていたり、美しい花が咲いている情景を欄間にどう彫ったら良いか、経典などを読んで勉強します。



中根市長 これは魚が彫ってありますね。

石川さん 魚屋を営まれていたかたがお亡くなりになり、せっかくだから海の生き物をたくさん入れたいということで彫りました。イメージは竜宮です。

中根市長 なるほど。注文に応じてオーダーメイドもできるんですね。彫刻にかける想いを聴かせていただけますか？

石川さん 祖父も父もやっていた仕事なので自分が始めるときも抵抗なく、彫刻が好きという気持ちでここまでやらせてもらってきました。仏壇という形になって皆さんに拝んでいただくものを制作している、そんな高貴なことに携わらせていただけてありがたい仕事だと感じています。それがやっていてよかったと思えることでもありますし、祖父や父から受け継いだ想いだと思っています。

八職の技術が集結 超一流の職人たちが作り上げる三河仏壇

太田社長 三河仏壇は全部で8つの工程があり、それぞれに職人さんがいて「八職」と呼ばれています。

中根市長 金箔が貼ってある部分は全て漆が塗ってあるということですか？

石川さん そうです。漆を塗ったら乾かし、ザラザラしている表面を研いで平らにする。また塗って乾かして研ぐ、これを 7, 8 回繰り返して表面が平らになればなるほど艶が出ます。

中根市長 ものすごい手間ですね。

石川さん 漆を接着剤にして、金箔を上から押して貼ります。それぞれのパーツを合わると一つの仏壇になるということです。

中根市長 みんなで協力して作り上げる。まさにチームですね。

太田社長 それをプロデュースしているのが三河仏壇振興組合の商部ということになります。

当社は商部ですが、箔押しと組立の職人がいます。組立師の柴田究(しばたきわむ)は令和4年度に県の伝統的工芸品功労賞を受賞しました。



柴田さん 八職が作ったひとつひとつの部品を組み立てるのが私の仕事です。傷つけてしまわないように細心の注意を払っています。

仏壇は家の中にあるものの中で一番長く使っていただけるものです。今でも修復作業にお伺いすると江戸時代から使っている仏壇に出会うこともあります。100年、200年もの期間、大切に持ち続けるものなので誠心誠意作り続けていきたいです。

太田社長 柴田は元々は当社の仏壇を運搬する社員でしたが、先代の社長に素質を見出され製造に携わるようになり組立師になりました。

そして、こちらが箔押し師の小島めぐみです。令和5年度に県の優秀技術者賞を受賞しました。



中根市長 本当に優秀な方々ばかりですね。

小島さんは何がきっかけで箔押し師になられたのですか？

小島さん 寺院の箔押しの仕事をしている友人がいて、たまたま働いている姿を見る機会があり、金箔が剥がれてしまったところに金箔を押し直していくと、どんどんきれいになっていくのが「おもしろい！」と思ったんです。

友人と同じところで働くようになり、その後、縁があって愛知屋仏壇本舗で働くことになりました。

中根市長 始めたのは何歳の頃ですか？

小島さん 30代前半です。それまでは専業主婦でした。

中根市長 専業主婦から一人前の箔押しになられたとは、驚きです。



小島さん 仏壇は皆さんが大切に拝むものなので、常に「自分がお客様だったら」という気持ちを忘れずに、妥協はしません。金箔の艶の仕上げは、日々の気温や湿度で仕上がりが変わるので、その日の気候に合わせ、箇所ごとに適した表現の艶加減で仕上げるよう心がけています。毎日毎日が修行です。

太田社長 三河仏壇の技術は全国に例を見ないほど高いです。

岡崎には京都よりも寺院が多くあり、三河仏壇の職人は寺院の修復も行ってらっしゃいますよ。

中根市長 それは初めて知りました。ヨーロッパ大寺院の修復作業なんていうのはよくテレビやニュースで見ると、岡崎の寺院も三河仏壇の超一流の職人たちによって修復作業が行われているということですね。

太田社長 みなさんに知っていただきたいという思いで、「職人実演・体験の工房見学」を開催したり、小学校での出前授業なども取り組んでいます。

小島さん いつか、有名な東照宮を修復した人が、「職人になったきっかけは岡崎市で小学生のときに体験した箔押しです」なんて言われる日が来たら嬉しいです。

伝統を守りつつ未来へつながる話

太田社長 三河仏壇振興協同組合は、私たち、商部と職人たちの工部から成り立っています。みんなで力を合わせて切磋琢磨し、昔ながらの技法を厳しく守り、伝統的工芸品を作り続けています。



太田ディレクター 元々、仏壇は人の心を救うもの、故人を供養するためにあり、家の中心にあるものでした。

時代とともに人々の悩みは多様化し、その時々々の時代性と現代人の多様な心の悩みを解決する、一人ひとりのための仏壇「アーティザナルライン」を発表しました。伝統を継承し

ながらも、今、未来へとつながるシリーズです。

一般的に、仏壇のお釈迦様は悟りを開いた後の姿で蓮の花の上に座っていますが、このシリーズでは、菩提樹の葉の上で瞑想している姿を見せています。これまでは「救う・救われる」という関係性でしたが、お釈迦様も瞑想し、自分自身と闘っている姿を見せることで、「共に頑張ろう」というメッセージを伝えています。

背面がガラスになっていて、自然光が入ると優しい明かりで照らしてくれます。また、軽いので自由に移動することもできて、現代の生活に合ったデザインとなっています。

中根市長 伝統を守りつつ、未来も見据えた新しい取組もされているんですね。

仏壇はアートだと思います。「仏壇美術館」なんていうものがあったらおかしくないですね。三河仏壇振興協同組合は最強ですね。大尊敬します。



箔押し体験をさせていただきました

おでかけデータ

訪問日:令和6年2月 21 日

訪問先:三河仏壇振興協同組合

(加盟店 株式会社愛知屋仏壇本舗 岡崎市能見通1丁目81番地)

ここがイチオシ!

- ・ 受け継がれる伝統と新たな創造
伝統を活かした先々代デザインの仏壇（葵博で展示）
未来へ繋がる新しい仏壇の形（デザイナーズ仏壇）
- ・ 仏壇の意義を知り、心を繋ぐ新しい祈りのかたち
故人への思いを込めて、親族の方が職人と共に仏壇洗いを行う。
- ・ 伝統の技術を活かした新たな彫刻デザイン
故人の生前好きだったものや仕事に関する物等、遺族の話を聞き取り入れる（例：車）

その他 三河仏壇振興組合や加盟店での取り組み

- ・ 小学校への出前授業
矢作東小学校、上地小学校等
- ・ 岡崎市JAZZストリート参加（愛知屋仏壇本舗）（11/4）
JAZZを聴きながら伝統工芸士実演見学、彫物体験
- ・ 愛宕小学校2年生の町探検受入れ（愛知屋仏壇本舗）（11/8）
お仏壇の意義や三河仏壇の工程の説明。金箔押し体験。

1

三河仏壇とは

【沿革】

文献によると元禄17年(1704年)、矢作川(やはぎがわ)から運ばれる松、杉、檜(ひのき)などの良材と、三河北部の漆(うるし)を材料として、仏壇師庄八家(しょうはちけ)が製造したのが始まりといわれています。

【特徴】

三河地方では仏壇を押入れに安置する習慣だったため、押入れに合わせた高さ、奥行、幅と、その条件の下でいかに豪華に見せ、かつ拝みやすくするかに工夫が凝らされてきました。そのため台は低く、なげしは「うねり長押(なげし)」となっています。

仏壇づくりの各工程を担う「八職」と呼ばれるそれぞれ専門の職人たちの共同作業によって製作されています。

木地師(きじ)...仏壇の外郭本体を作る

宮殿造り(くうでん)...仏像・仏画を安置する須弥壇・屋根・柵組を作る

彫刻師...仏界のさまざまな絵模様を木彫する

金物師(かざりかなぐ)...仏壇に取付ける銹金具を作る

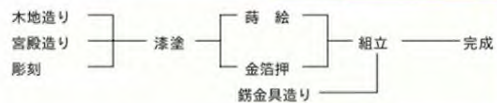
塗師(ぬり)...木地部分に漆塗りをする

蒔絵師(まきえ)...漆塗りされた部分の必要な個所に絵模様を描く

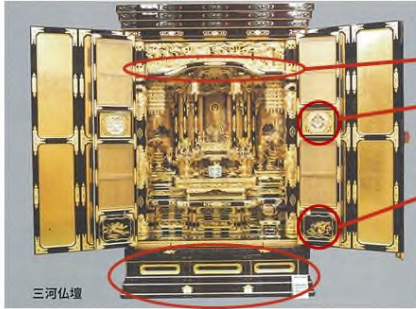
箔押し師(はくおし)...漆塗りされた個所に金箔を貼り付ける

組立師...銹金具を取付け各部分を検査し一本の仏壇に組む

昭和51年12月15日 指定



2



三河仏壇



蒔絵 (まきえ)



花子彫



うねり長押し(なげし)



比較対象

名古屋仏壇

【三河仏壇の特徴】

- 台が低く「三杯引き出し」を備える
- 宮殿が見やすい「うねり長押し」
- 障子中に花子彫
- 障子腰に蒔絵板
- 洞内に経本を入れるスペース
- 台に薄引出し

【三河仏壇振興協同組合】

組合員数43名 (令和5年4月現在)

〒444-0025 岡崎市門前町5-1

TEL 0564-24-7766 FAX 0564-24-7766

URL : <https://www.mikawabutudan.com/>